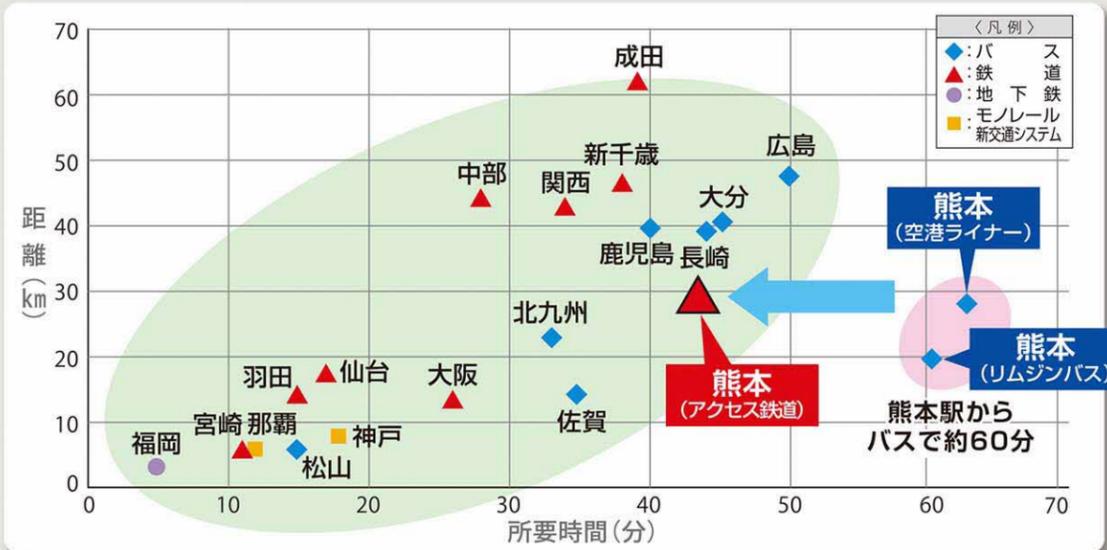


現状・課題

○各空港から主要ターミナル駅までの距離と時間

現在の空港アクセスは自動車に依存しており、熊本都市圏では、三大都市圏を除く政令市で最悪の水準である交通渋滞により、定時性・速達性の確保など、空港アクセス改善は喫緊の課題。



○国内線・国際線旅客者数は30年後に約2倍となる見込み

2017年度：334万人 → 2051年度：622万人（熊本国際空港株式会社の目標値）
 ※鉄道ができない場合のリスク → 更なる渋滞悪化、CO₂排出量増加 等

空港アクセス鉄道の概要

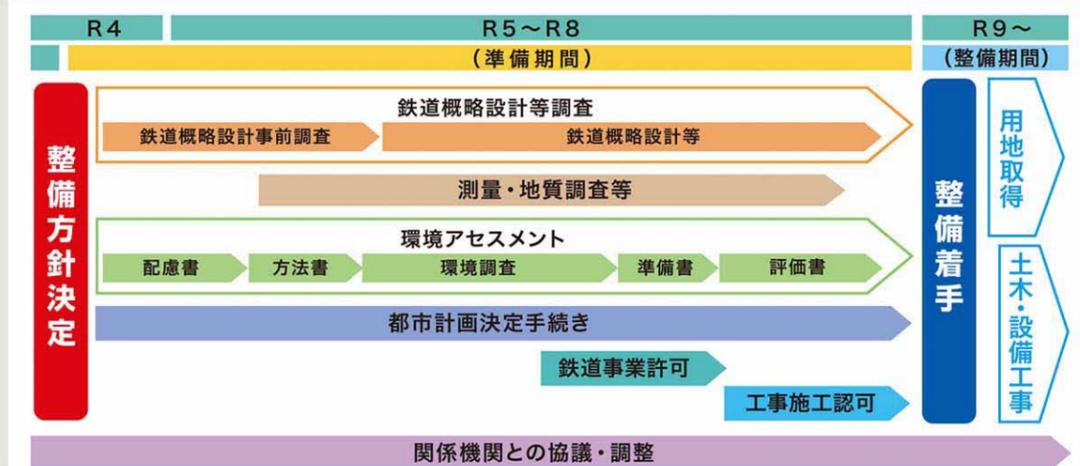
開業年次は2034年度末を想定

概算事業費(税込) ^{※1}	約410億円	
整備延長	約6.8km	
所要時間(熊本駅～空港駅)	約44分(約39分 ^{※2})	
需要予測(予測年次2035年)	約4,900人/日(～約5,500人 ^{※2})	
B/C (費用便益分析)	30年	1.03(～1.21 ^{※2})
	50年	1.21(～1.41 ^{※2})

※1 2021年4月価格

※2 快速運行を追加する場合の可能性について、県が設定する前提条件(+14本/日(+1本/h) [片方向]) をもとに試算

●想定スケジュール



【お問合せ先】
 熊本県企画振興部交通政策・統計局空港アクセス鉄道整備推進課

〒862-8570 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
 TEL 096-333-2169 FAX 096-385-4815 E-mail: kukoaku@pref.kumamoto.lg.jp

令和6年8月作成



(熊本県ホームページ)

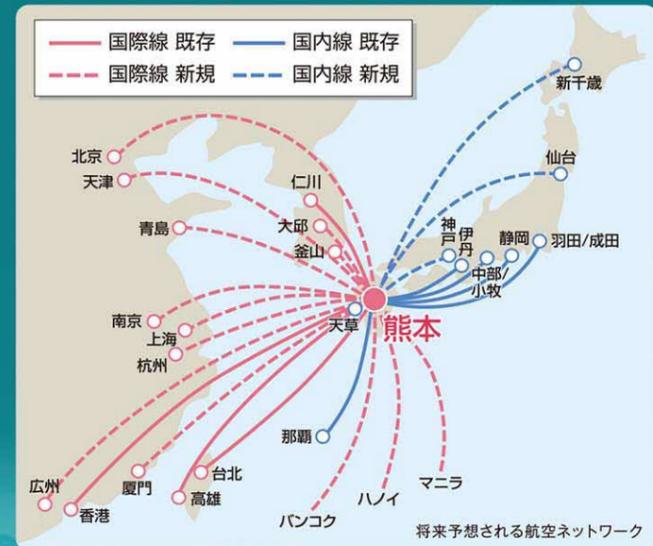


空港アクセス鉄道の整備によって期待される効果



空港を核とした活気ある地方創り ~新大空港構想の実現~

・アジアのゲートウェイ空港



・空港周辺地域を拠点とした「UXプロジェクト」の推進

<ライフサイエンス分野における新産業の創出>

・空港周辺エリアの活性化と利用者等の利便性向上



・熊本テクノリサーチパークにおける人的・技術的交流拠点の設置



半導体関連を含む企業集積に向けたインフラの礎 ~経済安全保障の確保~

空港周辺地域の利便性向上による企業誘致の加速化
(半導体関連の企業立地の機運の高まり)

▼空港周辺市町村に立地している半導体関連主要企業



「誰一人取り残さない」公共交通の実現

- ・バリアフリー化による子どもや高齢者、障がい者の交通手段の確保
- ・鉄道をはじめとした公共交通と連携したコンパクトなまちづくり

・現地対策本部や防災拠点と鉄道で直接結ばれることによる拠点性向上
※阿蘇くまもと空港は広域防災拠点に位置づけられている

南海トラフ地震に対応する広域防災拠点の機能強化

カーボンニュートラルを目指す戦略的取組み

旅客1人を1km運ぶ際の二酸化炭素排出量 (g-CO₂/人km)

自家用乗用車	133
航空	96
バス	54
鉄道	18

約7分の1

・自動車から環境負荷の小さい鉄道への転換によるCO₂削減
・ハイブリッド型車両等の最新技術や自然再生エネルギーの活用検討

【空港アクセス鉄道整備による】CO₂排出削減効果

318.1t/年
(ドラム缶700本分のガソリン使用料削減に相当)



熊本地震からの創造的復興の総仕上げ

コンセッション方式×空港アクセス鉄道×国内線・国際線一体型の新旅客ターミナルビル
(民間委託)

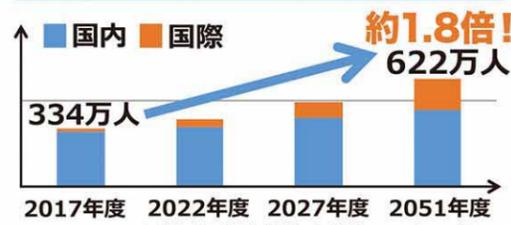
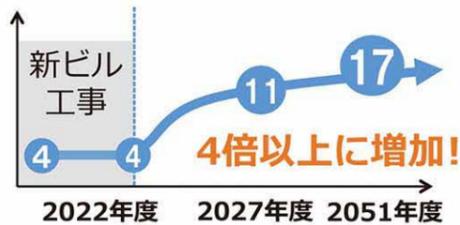


(2023.3.23 阿蘇くまもと空港 新旅客ターミナルビル開業)

空港アクセスの改善が喫緊の課題

国際線・就航路線数(目標)

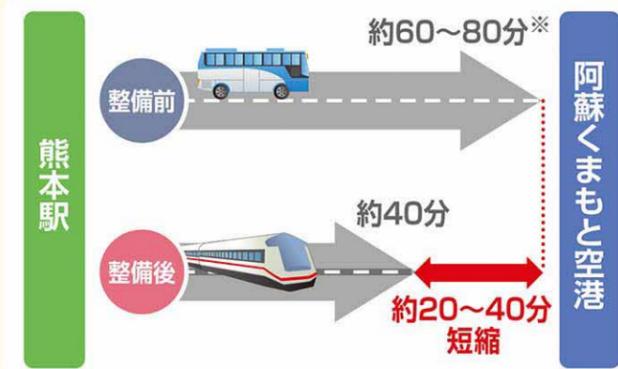
旅客数(目標)



「速達性」の確保



熊本駅からの所要時間が大幅に短縮



現状バスで 約60~80分* → 約40分 (約20~40分短縮)

※朝夕渋滞時

「定時性」の確保



所要時間を正確に把握可能

●渋滞の影響を受けない効率的な移動が可能となり、観光地等での滞在時間の延長が期待

「大量輸送性」の確保



一度に多くの人々が乗車可能

●輸送可能な人数が多いため、積み残しが発生しにくい



熊本港

阿蘇への新たなアクセスルート

- 空港から鉄道で世界的な観光地である、阿蘇地域へアクセスすることが可能



九州横断特急

観光列車との連携

- 熊本県内に導入されている観光列車と連携することで、更なる利用者や観光客の増加を期待



特急A列車で行こう



肥薩おれんじ鉄道



南阿蘇鉄道

九州を支えるセントラル空港

- 九州の中央に位置する阿蘇くまもと空港が、その地理的優位性を活かし、九州のセントラル空港としての役割を担うことを期待

九州全域の新たな観光ルート形成

- 九州全域の新たな観光ルートが形成され、回遊性が高まり、九州全体の観光客増加を期待

